

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経営戦略研究科後期課程
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 国際交流の基本方針について、入試要項やウェブサイトに公表する	→毎年1回の要項とウェブサイトの更新とアクセス数	C
2. 国内外における提携大学院との教員・学生間の交流を拡大する	→国内外の研究科間協力を結ぶ協定大学院の数	C
3. 学内の国際教育・協力期間との連携を強化する	→CIECとの会議回数	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 7.0.1	(現状説明) 個々の研究指導単位で、諸外国の研究者や研究機関との交流が行われている。しかし、その内容は研究科として、組織として展開するものには至っていない。
☆ 小項目 7.0.2	(現状説明) 個々の研究指導教員のレベルでの対応が中心で、研究科としての施策を展開するに至っていない。
☆ その他	

《特定6項目データ》

本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

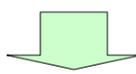
【経営戦略研究科後期課程】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	/	/	/	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	/	/	/	—	—		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	/	/	/	—	—		
		外国人留学生	正規	人	/	/	/	0	1	
			交換	人	/	/	/	0	0	
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	/	/	/	0.0	5.9	外国人留学生(正規)÷在籍学生数
			交換	%	/	/	/	0.0	0.0	外国人留学生(非正規)÷在籍学生数
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	/	/	/	—	—				
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	/	/	/	—	—		
		人 数	長期	人	/	/	/	0	0	
			短期	人	/	/	/	0	0	
		在籍学生比率	長期	%	/	/	/	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	/	/	/	0.0	0.0	
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	/	/	/	—	0		
		短期	人	/	/	/	—	0		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	/	/	/	—	0		
		短期	人	/	/	/	—	0		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	/	/	/	—	—		

注) 正規、交換について
 正規とは学位取得目的(大学院生は特別学生を含む)。交換とは正規以外で大学院短期留学を含む
 注) 長期、短期について
 指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。
 指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 7.0.1	
★ 小項目 7.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 7.0.1	
★ 小項目 7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 7.0.1	
★ 小項目 7.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 7.0.1	
★ 小項目 7.0.2	博士課程後期課程の学生を指導する海外教員を来年度春学期に招聘予定。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○発足二年目で実績もこれからと思われるが、本研究科独自の「方針」作りや委員会のような組織作りを通して前向きに取り組んで行かれることが期待されます。

【学内委員】

○小項目7.0.1の説明においては、まず（方針）として、方針そのものを記述してから、現状説明してください。

○小項目7.0.1の現状説明は、小項目7.0.2での説明だと思います。

○改善すべき事項・方策に関する記述が、やや簡素すぎる印象です。

○現状説明に課題が書かれているので、改善すべき事項にも記述することが望まれます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 本課程にはすでに台湾からの留学生が在籍している。また、在学生のうち海外の大学等において短期の調査研究に従事した者も5名いる。小規模な本課程ではあるが国際交流は非常に積極的に短期間の実績を上げていると認識している。平成22年度中には、イギリスの大学の研究センター2箇所と研究科間協定を締結の予定であり、23年度には英国パーミンガム大学から客員教授を二ヶ月間招聘予定で、本課程学生の研究指導に当たっていただく予定である。なお、平成23年度にはこうした実績を踏まえ、中長期的に本専攻としての国際交流のあり方についての検討を行う体制の整備を進める予定である。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
